

平成二十七年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

非公開

(三 中信宏『系統樹思考の世界―すべてはツリーとともに』講談社現代新書、二〇〇六年、三八〜四五頁、抜粋・一部改変)

問一 本文の論旨を六〇〇字以内でまとめなさい。

問二 典型科学以外の学問分野(歴史研究、文学研究、言語研究、民俗研究など)が「科学」となるにはどのようなことが必要か、あなたの考えを六〇〇字以内で述べなさい。

平成二十七年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

法学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

出題の意図

国際言語文化学科・琉球アジア文化専攻は、琉球・沖縄および日本・アジアの諸地域の言語・文学・歴史・民俗への理解を深めることを目指している。したがって、この専攻の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心が要求される。問題文は、「科学」としての資格を満たすための基準について、自然科学に代表される典型科学の基準を引き合いにしつつ、歴史科学の立場からどう考えるかについて述べた文章である。本出題の意図は、歴史科学の立場から「科学」的研究の基準について考えた文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握できるかを問うことにある。加えて、一般的により「科学的」とされる典型科学の基準とは異なる独自の基準のあり方に着目すべきであるという筆者の主張を汲み取った上で、本専攻の研究分野である歴史研究・文学研究・言語研究・民俗研究の分野において、どのような独自の基準を持つべきかについて論述させることによって、「科学」的研究の基準について論じた文章に対する受験生の理解力、および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。